

さよなら原発!
11.10
九州沖縄集会
主催 さよなら原発! 11.10九州沖縄集会実行委員会

原発の再稼働を許さない 1万人の人々が思いをひとつに



集会の代表呼びかけ人として共同体代表理事 田中裕子さんが紹介されました



「原発いらぬ!」とアピールしながらデモ行進する組合員

**原発の再稼働を
なんとしても止めたい**

九州では、2011年12月26日の九州電力玄海原発4号機の停止以来、約2年近く原発は全く稼働していません。現在は日本の原発54基すべてが止まっています。しかし福島原発事故の収束も、原因の究明も全く不十分なまま、原発の再稼働に向けての動きが、なほ崩壊的に進められています。代表呼びかけ人の九州大学副学長吉岡斉さんは、「原発事故による被害は計り知れない、償いきれないということ私たちは実感させられました。人類史上最悪の、危機的な経験を踏まえ、原発再稼働を止め、原発をなくしていくための政策論争でも闘っていききたい」と訴えました。

「3.11行動する会」の広瀬隆さんは、「再稼働はもう1回核燃料に火をつけること。原発は莫大な熱を持つことから危険が高まる。玄海原発も川内原発も停止してから2年近く経ち、核燃料(炉心)はかなり冷やされている。絶対に火をつけてはいけません」と訴えました。続いて、同会の秋山豊寛さん(日本人初の宇宙飛行士)は、「原発を止めるなら今しかないですよ!」と訴えました。

福島県から福岡県へ子どもとともに避難してきた女性は、自分や子どもたちから普通に暮らす幸せを奪った、原発事故の本当の恐ろしさと、真実を語ろうとしない国に対する強い怒りを、参加者に訴えました。

2013年11月10日、福岡市で「さよなら原発! 11.10九州沖縄集会」(原発の再稼働を許さない)未来へ渡そう核なき大地が開催されました。グリーンコープはこの集会の呼びかけ団体となり、各単協から組合員やワーカーズ、職員など約1000人が参加しました。また、各単協で原発再稼働に反対する署名と、集会の賛同金の取り組みも行いました。

会場に集まった1万人を超える人々は集会後3コースに分かれ「原発いらぬ! 命が一番」と声を上げながら九州電力本社までデモ行進をしました。

ご協力ありがとうございました!

原発再稼働に反対する署名と集会の賛同金の取り組み結果

署名筆数	32,328筆
賛同金合計	1,404,500円

ふくおかが出店したブースでは、神在太陽光発電所や東日本大震災被災地支援についての展示と、産直びん牛乳の試飲、グリーンコープ商品の販売を行いました。



グリーンコープ独自の集会

全体の集会前には、グリーンコープの参加者が集会を開き、脱原発に向けての思いをアピールしました。



グリーンコープ共同体代表理事 田中裕子さん

私たちが日頃願っている原発のない社会をめざしていくために、みんなの力と思いを合わせて、元気に集会に参加していきたいと思えます。

ふくおか理事長 大橋由美子さん

グリーンコープの食べものや私たちがつくっている市民発電所についてのチラシを配布していますが、年齢を問わず興味を持っていただいているようです。私たちの具体的な一歩が、原発のない社会をつくることに役立つと思っています。



おおいた組織委員長 矢野絵理さん

おおいたは大分市から愛媛県の伊方原発まで35キロという、本当に近い距離に原発があります。伊方原発も来年の春には再稼働が予定されています。私たちは伊方原発の再稼働に強く反対していきたいと思えます。

共同体組織委員長 久保かおりさん

こうして力を結集させて、「絶対に再稼働させない」という気持ちを強く持っていきたいと思えます。市民のパワーを強い力に変えていって、原発のない社会を子どもたちに手渡したいと思えます。

神在太陽光発電所に隣接する研修施設の安全祈願祭が行われました



杯を傾け、工事が安全に滞りなくすすむよう祈願しました

2013年11月14日、研修施設の安全祈願祭が、グリーン・市民電力会長 田中裕子さん、グリーンコープ生協ふくおか理事長 大橋由美子さん、福岡地域理事長 古賀栄子さん他によって厳粛に行われた。

研修施設は、脱原発社会の実現に向けた実践や情報を発信する場として、組合員の学習会などに活用される。また、地域の人々の集う場となる予定。

現地であるグリーンコープ生協ふくおかが運営の委託を受け、有意義に活用するための検討が行われている。